

時間割コード	G2B65140	開講年度	2026				
授業題目	【東急G×信大 協働授業】ネイチャーポジティブ参画ゼミ				担当教員	高木 丈子	
英文授業名	Seminar of Nature Positive					浅野 郁	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限 集中・不定期	対象学生	全
講義室	共通教育3 6 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 的確に情報を収集し、理解し、発信する力				ネイチャーポジティブを理解し、自らの言葉で説明・発信し、持続可能な社会づくりに向けてどのように対応してゆけばよいかを総合的に考えることができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、グローバルコア人材養成コース・BASIC(日本理解)						
(4)授業の概要	ネイチャーポジティブを理解し、自らの言葉で説明・発信し、持続可能な社会づくりに向けてどのように対応してゆけばよいかを総合的に考えることができるようになる。						
(5)授業のキーワード	環境政策、森林政策、地方創生、生物多様性、生態系サービス、ネイチャーポジティブ、里地里山、二次的自然、景観、文化、自然資本、自然再興、鳥獣保護、環境教育、持続可能な開発、気候変動、循環経済、信州、人口減少、高齢化、環境マインド、課題発見・解決、実務経験						
(6)授業計画	1.授業スケジュール 水曜日4限目のゼミ（7回）と、2回のフィールドワーク（土曜予定）を組み合わせます。詳しい日程は、eALPSに掲載します。 （1）ゼミ（キャンパス内：日程は変更の可能性有り。） 第1回：4月15日【ガイダンス・生物多様性とは】 第2回：4月22日【ネイチャーポジティブにつなげる・東急の取組】 第3回：5月13日【取り組みの個人構想発表・グループ討議】 第4回：6月3日【普及啓発（おもてなし）案完成・準備】 第5回：6月17日【普及啓発（おもてなし）準備・進捗状況報告】 第6回：7月15日【グループ発表準備】 第7回：7月22日【グループ発表・まとめ】 （2）フィールドワーク（キャンパス外・東急リゾートタウン蓼科（茅野市内）を予定：日程は変更の可能性あり） 第1回：5月24日（日）【東急リゾートタウン・蓼科現地見学】 第2回：7月11日（土）【普及啓発（おもてなし）活動】に活動を実施します。 （3）レポート作成 フィールドワーク及び講義の内容について、グループでまとめ発表した結果等を踏まえ、ネイチャーポジティブに対してどのように取り組むべきかについて、提案する（詳細は別途指示）。 授業の進行状況により順序・内容を変更することがあります。						
(7)成績評価の方法	以下の方法により成績評価を行います。 （1）グループ発表（30） ）現状及び課題を的確に把握しているか ）課題に対して自らの考えを明確に持ち説明できているか ）簡潔で分かりやすいプレゼンテーションを行えているか ）他の人の発表に対して、適切な評価等を行っているか （2）フィールドワーク（30） ）ネイチャーポジティブの取組の現状と課題を理解し臨んでいるか ）ネイチャーポジティブに貢献する活動に積極的に参加し、考えることができたか （3）最終レポート（40）						
(8)成績評価の基準	授業の達成目標に対して以下の観点から評価を行います。 （ ）課題等の意図を正確に理解しているか。 （ ）社会動向等を踏まえ、正確な情報を収集できているか。 （ ）批判的視点を持ち、自己見解を論理的に述べているか。 （ ）創造的もしくは独創的な提案を述べているか。 上記の観点を満たし、かつ教員を感心させるレベルにあれば、「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目満たしていれば「やや上にある」、2項目まで満たしていれば「合格水準にある」とします。						
(9)事前事後学習の内容	特段の指示をした回以外は、予習は求めません。しかし、日頃から環境問題に関心を持ち、自己との関連性について考える訓練をしておいてください。 レポート作成に当たっては、最新のTVニュースや新聞記事等に注意を払うとともに、学術誌や図書など様々な情報媒体を使って自己分析の上、作成するようにしてください。 また、授業で学んだ施策等の現場を訪れるなど、知見と経験を深めることを推奨します。 この授業は、90時間の学修を必要とする内容です。従って60時間以上の時間外学習が必要です。						

(10)履修上の注意	・ 実地演習は2回とも参加しなければ単位認定されません。欠席による代替措置はありません。 ・ フィールドワークにかかる費用は自己負担になります。 ・ 学研災・学研賠に必ず加入してください。 ・ 本講義は共通教育特別横断プログラムの一つである「環境マインド実践人材養成コース」のコア科目です。定員を上回り抽選となった場合、環境コースの受講予定者を優先する場合があります。
(11)質問、相談への対応	授業中や授業時間後に質問や相談に応じます。また、研究室訪問やメールでも随時受け付けます。不在の場合もあるので、訪問の際は事前アポイントをお願いします。 メールアドレスは、takeko_t@（アットマーク以下は大学で付与されるメールアドレスと同じ）です。
(12)授業への出席	本科目は、講義・グループワーク、フィールドワークを含みます。上記すべての授業・活動に参加することを前提とします。 本授業は、原則対面での参加とし、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が6回以上になると授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されません。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	出席停止などの理由により授業に出席できない学生に対しては、オンデマンド形式の受講を認めます（講義の場合のみ）。授業開始前までにメールで連絡してください。
【教科書】	教科書は指定しません。必要に応じて資料を配布・案内します。
【参考書】	・ 生物多様性とは何か（井田徹治、岩波書店、2010） ・ 地図とデータで見る生物多様性の世界ハンドブック（サラ・ボルトラミオルほか、吉田 春美（翻訳）、原書房、2025） ・ ESGとTNFD時代のイチから分かる 生物多様性・ネイチャーポジティブ経営（藤田 香、日経BP、2023）ほか、必要に応じて授業内で紹介します。